研究年報

25

2007

神奈川大学法学研究所

フェミニサイドと社会浄化
――平時グアテマラにおける人権の危機――

ニューヨーク市立大学リーマン・カレッジ准教授
ビクトリア・サンフォード（Victoria Sanford）

1. はじめに

今日は、〝平時〟のグアテマラで現在見られる人権の危機についてお話したいと思います。まず、二十一世紀後期のグアテマラにおける国内武力紛争の概略をお話し、一九八〇年代のジェノサイド（集団殺害）について具体的に考察することから、二十一世紀のグアテマラにおける〝紛争後〟の暴力について考えていきます。現在の社会浄化（social cleansing）と呼ばれる選択的抑圧と、ギャングによる暴力について、分析の出発点となるのは、グアテマラ人一二万人につき四一人という非常に高い割合で殺人が起きている、紛争後の平時である今日です。このような日常的、組織的恐怖の構造の中でこそ、慣行と化したかのような女性の殺人、すなわちフェミニサイド（女性殺人）という現代の状況について考え始めることができるのです。クラウディーナ・イサベル・ベラスケス・パイズ（Claudina Isabel Valasquez Paiz）というひとりの女性の殺人事件の刑事捜査を追うことを通じて、グアテマラのフェミニサイドにおいて国家が果たしている役割――すべての市民に法の前の平等な保護を保障するという責任の懈怠――が明らかにされます。このように国家の役割について理解してくると、女性たちの殺人についての当局の説明に疑問を持たざるを

得ませんし、また翻って、一九八〇年代のジェノサイドから今日の社会浄化やフェミニサイドまで、恐怖を主たる拠りどころとして用いてきた権力が、不処罰によってその存在を保障されてきたことについて、国家の歴史的な役割を考えざるを得なくなるのです。

2. グアテマラ―ジェノサイドの歴史と紛争後の暴力

一九九六年一二月、グアテマラ政府軍とグアテマラ国家革命同盟（URNG, Union Revolucionario Nacional Guatemalteca）ゲリラが正式に和平協定に署名し、人々の間で〝La Violencia〟（暴力）と呼ばれていた、三〇年以上にわたる武力紛争が終結しました。真相究明委員会である歴史究明委員会（CEH, Comision para el Esclarecimiento Historico）の設置は、和平協定の結果のひとつです。CEHは、九九七年に活動を始め、一九九九年に最終報告書を公表しました。報告書の最も重要な成果のひとつが、生存者らの話によって裏付けられた〝La Violencia〟の数量化です。それによれば、

・六二六の村で大量虐殺が行われ、
・一五〇万人が住んでいた土地を追われ、
・一五万人が難民としてメキシコに逃れ、
・死亡者および失踪者は二〇万人以上にのぼります[1]。

暴力が最もひどかった一九八〇年代初期の人口が約八〇〇万人だった国にとって、この数字だけでもショッキングなものですが、さらに驚くべきは、このような恐るべき犯罪の責任の所在です。CEHは、すべての人権侵害の九

三%についてはグアテマラ政府軍に責任があり、三%についてはゲリラによって、また、四%は所属不明の者によって引き起こされたものだと結論づけています[2]。そのうえ、CEHは、グアテマラの人口の大多数を占めながら、貧困や不平等、差別のために政治的にも経済的にも恵まれない状況に追いやられているマヤの人々に対して行われたジェノサイドについては、グアテマラ政府軍と国家治安部隊に責任があると報告しているのです[3]。

ジェノサイドを定義する

一九四八年一二月九日に国連総会で採択され、グアテマラも加入しているジェノサイド条約によれば、ジェノサイド（集団殺害）とは、「国民的、民族的、人種的または宗教的な集団の全部または一部を集団それ自体として破壊する意図をもって行われる次のいずれかの行為をいう。

(a) 集団の構成員を殺すこと
(b) 集団の構成員に重大な肉体的又は精神的な危害を加えること
(c) 全部または一部の身体的破壊をもたらすよう企てられた生活条件を故意に集団に課すこと
(d) 集団内の出生を妨げることを意図する措置を課すこと
(e) 集団のこどもを他の集団に強制的に移すこと」（条約第二条）

です。

さらに、同条約第一条では、ジェノサイドが「平時に行われるか戦時に行われるかを問わず、国際法上の犯罪であることを確認し、かつ、（締約国が）これを防止し処罰することを約束する」ものであることを明確に述べています。

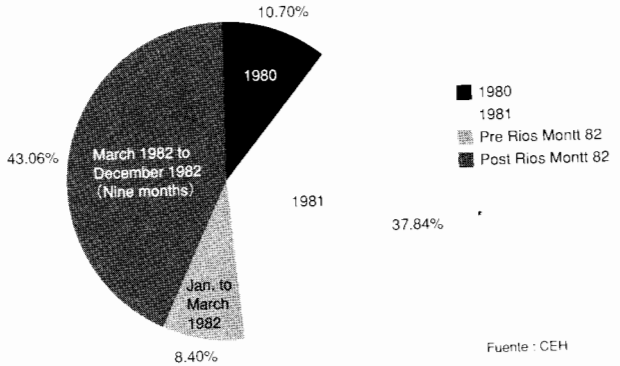
グアテマラのジェノサイドに責任を負うべきなのは誰で、その責任はいったいどのように定められるのでしょうか。

全一一巻のCEH報告書に基づき、私は、軍隊による六二六件の大量虐殺すべてについて、発生場所、加害者（軍隊か市民の自衛団か）、犠牲者の民族、年齢、性別を示したデータベースを作成しました。データベースでは、一九八〇年、一九八一年、一九八二年という、最も大量虐殺の多かった三年間に焦点を絞っています。この二六カ月の中でも、モント将軍（General Efrain Rios Montt）が一九八二年三月の軍事クーデターで政権を握った後、最初の九カ月間にラビナル（Rabinal）という市では大量虐殺の全犠牲者の四三％が亡くなっています。また、ラビナルにおける同じ二六カ月間の大量虐殺の犠牲者一、一二五人のうち四八七人は、やはり、モント政権の最初の九カ月に殺されているのです。〈図1〉

ジェノサイドは、文化的な集団を破壊しようとする意図を持つものであることから、ジェンダーに偏った残虐行為でもあります。すなわち、コミュニティの物理的な基盤と同時に再生産能力をも破壊しようとするのです。そのため、ジェノサイドでは、女性と少女たちがまず対象となります。一九八一年には、ラビナルの大量虐殺の一四％が女性（成人の女性および少女）

図1　Command Responsibility by Percentage of Massacre Victims

Responsibilidad por Porcentaje de Victimas de Masacres
Baja Verapaz, 1980-1982

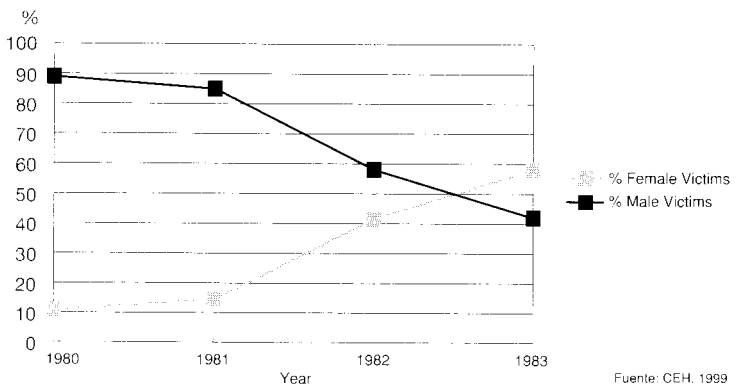


でした[1]。一九八二年には犠牲者の四二%が女性であり、一九八二年半ばには、男性犠牲者の数は減少したにもかかわらず、殺された女性と少女の数は急激な増加を見ました。この男性犠牲者数と女性犠牲者数の逆転は、選択的大量虐殺からジェノサイドへという、グアテマラ政府軍の戦略変更が成功裏に実施されたことを示しています。一九八二年中頃のこの変更は、モントが軍事クーデターで政権についてから三カ月後になされたものです。〈図2〉

ジェノサイドの定義を考えるためには、ラビナル市民の大多数はアチ・マヤ（Achi-Maya）の人々であったことに、注目することが重要です。その隣にあるサラマ（Salama）市は、バハ・ベラパス（Baja Verapaz）州の州都ですが、ここの住民の大多数は、スペイン人その他のヨーロッパ人と先住民の祖先との混血であるラディーノ（ladino）またはメスティソ（mestizo）と呼ばれる人々です。ラビナルとサラマで起きたすべての大量虐殺を合わせてみると、九九%の虐殺がマヤの人々が大多数を占めるラビナルで起こり、ラディーノがほとんどのサラマの犠牲者はほんの一%に過ぎません。〈図3〉実際、バハ・ベラパスのア

図2 Percentage of Massacre Victims by Gender Baja Verapaz 1980 to1983

Porcentaje de Victimas de Masacres por Genero
Baja Verapaz 1980-1982



Fuente: CEH, 1999

チ・マヤ地域では、軍隊による虐殺によって人口の一六%が殺されています。全国レベルでも犠牲者の民族は重要です。実に犠牲者の八二%はマヤであり、一七%がラディーノです。

ジェノサイドの認定

CEHがジェノサイドの報告書を発表してから五年後の二〇〇四年四月二九日、米州人権裁判所が、一九八二年七月一八日にラビナル近くの山岳地帯にあるプラン・デ・サンチェス(Plan de Sanchez)村で起きた、八八人のアチ・マヤ人の大量虐殺について、グアテマラ政府を非難しました。この判決では、裁判所が初めてジェノサイドの事実とその責任がグアテマラ政府軍の兵士にあることを認めたのです。この裁判所の判決は、プラン・デ・サンチェスの人々にとってのみならず、特に重要なものでした。なぜなら、判決の主要点として、グアテマラ政府軍が、対ゲリラ活動として国家安全保障原則(National Security Doctrine)を適用したことで生じた国内武力紛争という枠組の中で、グアテマラのジェノサイドが起きたことを宣言していたからです。さらに、裁判所は、ジェノサイドの責任はモ

図3 **Massacre Victims 1980-1983**

Victimas de Masacres 1980-1983
Rabinal y Salama, Baja Verapaz
Porcentaje de Victimas por Municipalidad

Fuente : CEH

ント政権にあると述べたのです。

それから二年数カ月後、スペインの裁判所が、ジェノサイド、テロリズム、拷問、喧殺、不法勾留などの罪に基づき、多くの元将軍や軍の指揮官らに対する国際逮捕状を発付します。対象となったのは、モント将軍（General Efrain Rios Montt、軍事クーデターにより一九八二年三月から一九八三年八月まで政権の座に就く）、ビクトレス将軍（General Oscar Humberto Mejia Victores、軍事クーデターにより一九八三年八月から一九八六年一月まで政権の座に就く）、ガルシア将軍（General Fernando Romeo Lucas Garcia、一九七八年から一九八二年三月までグアテマラ大統領）、ロドリゲス将軍（General Angel Anibal Guevara Rodriguez、ガルシア政権の防衛大臣）、ルイズ氏（Donaldo Alvarez Ruiz、ガルシア政権の内務大臣）、バラホナ大佐（Colonel German Chupina Barahona、ガルシア政権の国家警察長官）、アレドンド氏（Pedro Garcia Arredondo、ガルシア政権の国家警察第六司令部司令官）、ベネディクト・ガルシア将軍（General Benedcito Lucas Garcia、兄の政権下での軍参謀総長）らです。二〇〇七年三月現在、これらの軍関係者らはいずれも引き渡されておらず、手続を遅らせるためにそれぞれが数多くの要請を提出しています。しかも、彼らは、公に自らを正当化し、人権侵害の認識があったことを否定しています。現在まで誰も投獄はされていないものの、インターポール（国際刑事警察機構）の国際逮捕状リストに記載されている者が滞在している国は、速やかにその者を引き渡さなければならないという協定によって、グアテマラが彼らの刑務所となっています。それでも、彼らは、お手盛りの恩赦によって訴追から免除されていると主張し、処罰されずにグアテマラで暮らしている

″紛争後″の暴力

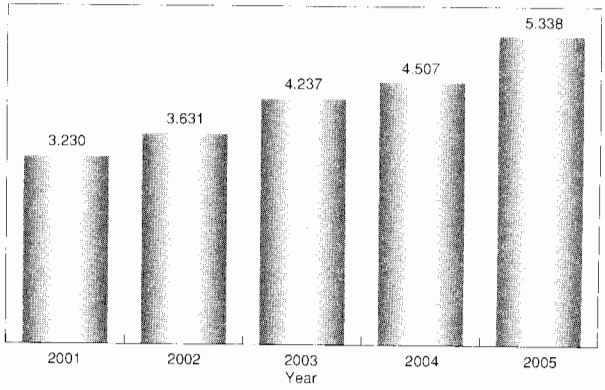
このようなジェノサイドと不処罰を背景に、今日のグアテマラ人は、今も上昇を続けている天文学的に高い殺人発生率が示すとおり、著しく暴力的な環境に暮らしています。二〇〇〇年の殺人の犠牲者は三、二三〇人でしたが、二〇〇五年には、犠牲者数が五、三三八人まで増加しています。〈図4〉

グアテマラでは、″平時″の五年間に二〇、九四二件の殺人が記録されています。もしも、現在の割合で犠牲者の数が増加し続けるとしたら、平和になってからの二五年間で、国内武力紛争とジェノサイドの三六年間よりも多くの人が命を落とすことになります。

このような日常的な殺人において特に気にかかるのは、殺される女性の数が二〇〇一年から二〇〇五年のあいだに六五%も増えているということです。殺された女性のほとんどは、一六歳から三〇歳の間に集中しています。〈図5〉

米州保健機構では、住民一〇万人当たり一〇人以上の殺人を″多発″と定義し、公衆衛生にかかわる問題であるとしています。日本では、住民一〇万人当たりの殺人は一人にもなりませ

図4



〝紛争後〟の暴力

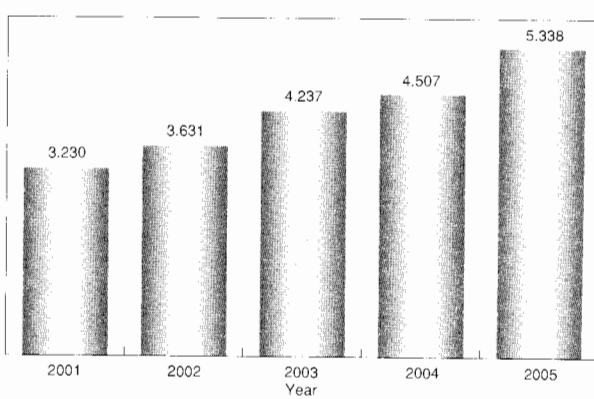
このようなジェノサイドと不処罰を背景に、今日のグアテマラ人は、今も上昇を続けている天文学的に高い殺人発生率が示すとおり、著しく暴力的な環境に暮らしています。二〇〇〇年の殺人の犠牲者は三、一三〇人でしたが、二〇〇五年には、犠牲者数が五、三三八人まで増加しています[8]。〈図4〉

グアテマラでは、〝平時〟の五年間に二〇、九四三件の殺人が記録されています。もしも、現在の割合で犠牲者の数が増加し続けるとしたら、平和になってからの二五年間で、国内武力紛争とジェノサイドの三六年間よりも多くの人が命を落とすことになります。

このような日常的な殺人において特に気にかかるのは、殺される女性の数が二〇〇二年から二〇〇五年のあいだに六五%も増えているということです。殺された女性のほとんどは、一六歳から三〇歳の間に集中しています[9]。〈図5〉

米州保健機構では、住民一〇万人当たり一〇人以上の殺人を〝多発〟と定義し、公衆衛生にかかわる問題であるとしています。日本では、住民一〇万人当たりの殺人は一人にもなりませ

図4

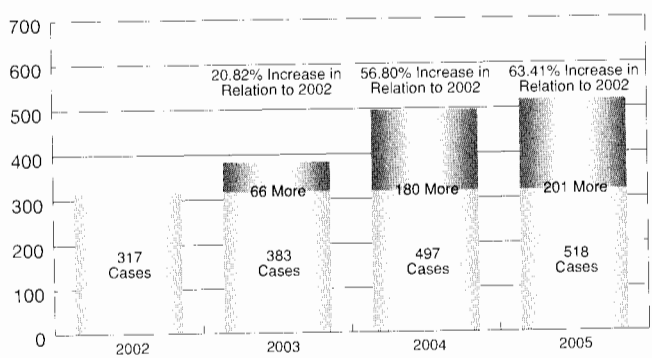


ん[10]。ラテン・アメリカの住民一〇万人当たりの平均殺人件数は三〇件です[11]。グアテマラでは、二〇〇五年には住民一〇万人当たり四二件の殺人がありました。グアテマラ・シティだけを見てみると、この数字は八〇件以上になります。エスクイントラ(Escuintla)というグアテマラ・シティのすぐ隣の地域では、住民一〇万人当たりの殺人が一四七件も起きています。これらの殺人事件の犠牲者の何人かはグアテマラ・シティの居住者であり、遺体がエスクイントラに捨てられたものと見られています[12]。二〇〇二年から二〇〇五年の間に、一、七一五人の女性と一五、九九八人の男性が殺害され、犠牲者数合計は一七、七一三人です[13]。男性と女性、双方のこのように高い殺人の統計数字を見たうえで、私は、グアテマラにおけるフェミニサイドを理解するためには、男性の殺人についても問題視する必要があると提案したいと思います。〈図6〉

3. 社会浄化とギャングによる暴力

社会浄化

図5

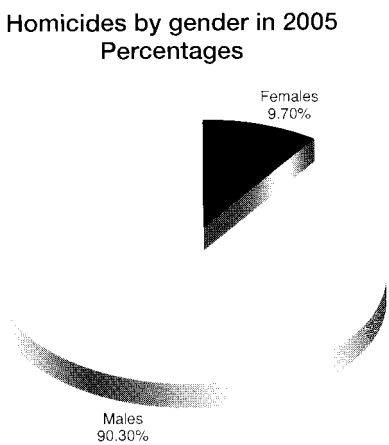


社会浄化とは、国家と関係する武装主体によって、あるいは国家と直接の関係はないが、国家から故意または偶発的に見逃されて抑圧的な行動を実行している民間の主体によって、組織的に作り出された選択的かつ恣意的な抑圧のメカニズムを意味します。社会浄化は、生命への権利の直接の侵害です。社会浄化は、望ましくないと目される個人あるいは個人の集団に向けられるもので、脅しと殲滅を目標としています。社会浄化では、通常、それらの犯罪の実行者に対する不処罰について、暗黙の保障が与えられています。すなわち、加害者の特定と処罰を行わないことが、国による捜査が不十分だったり、捜査が全く行われなかったりすることによって保障されているのです。社会浄化の実行あるいはあらゆる市民に対する憲法上の保護を保障する義務の不履行の責任は、国家にあるのです。

死因、遺体発見場所、犠牲者のプロフィールなどが、社会浄化の存在を表す指標となります。同様に、拷問の痕跡も社会浄化の存在を示すものです。二〇〇四年には、二二人の遺体に拷問の痕跡が見られました。二〇〇五年には、同様のケースが三〇五件あり、この三〇五遺体からは様々な拷問手段の痕跡が四

図6

In 2005 there were a total of 518 Female and 4,820 Male murders registered.
Between 2002 and 2005, 1,715 female homicides and 15,998 male homicides were registered in Guatemala - a national total of 17,713 people killed in four years.
source : PDH 2006



〇三カ所見つかっています。最も多く見られる拷問の痕跡は絞首であり、続いて、頭部への銃撃、頭部および身体の殴打、手および足の拘束が多く報告されています。女性の犠牲者は殺人事件全体の一〇％でしかないのに、拷問の痕跡のあった一〇五遺体の中で一八％を占めています。拷問の痕跡のある女性には、性的虐待の痕跡も見られました。また、二〇〇五年に起きた五、二二八件の殺人事件のうち、六四八遺体が殺害場所とは異なるところで発見されました。これは、犠牲者が拘束され、殺害のためにどこかへ連れ去られたことを意味しています。さらに、遺体は別の場所に運ばれたうえで放置されています。このような計画的な殺人を実行するためには設備と資金が必要であり、これも社会浄化の特徴となっています。

これらの状況を一般的な犯罪の結果として説明するためには、二〇〇二年以降、普通の殺人犯が活動を活発化させ、しかもその犠牲者を運んだり、隠したりしたうえに、それぞれ異なる場所で拷問し、殺害し、放置するという余計な手間をかけるようになったという、信じがたいような前提を受け入れる必要があります。私たちは、また、彼らがいかなる治安当局にも見つからずに、自由に国中を動きまわっているという、かなり高い確率で起こりえないと考えられる前提を認めなくてはなりません。PDH（人権オンブッド）などの観察者は、これらの状況を社会浄化と関連づけていますが、政府や警察は、殺人率の高さをギャングや犯罪組織、それに通常見られる不法行為のためであるとしています。新聞記事は、ある種のお約束のように、犠牲者に疑いのベールを掛ける傾向にあります。例えば、刺青をしていた男性やへそにピアスをしていた女性はギャングのメンバーだったに違いないというのです。また、多くのグアテマラ人は、公共の安全の欠如や不適切さを指摘しています。最近の調査では、グアテマラ人の実に九〇％が警察を信用していないと答えています。

ギャング

メキシコやエルサルバドル、その他のラテン・アメリカの国々と同様、グアテマラでもギャングは深刻な問題ですが、ギャングの活動には社会浄化とは実際にかなり異なる特徴があります。ギャングが暴力を働くのは自らの縄張りの中であることが多く、一般に、縄張りの境界や市場、資源、協力相手やメンバーをめぐって暴力事件を起こします。すなわち、ギャングが殺人などの暴力を実行する場合には、自分たちの縄張りの中か、あるいはその周辺であることが多いのです。これらのギャングによる暴力は、ギャングが犯罪組織（グアテマラの場合は麻薬取引組織）と関係を持った場合、悪化します。多くの点で、今日のグアテマラのギャングは、麻薬取引や民兵組織と関係している、コロンビアのシカリオス（sicarios、一三～一六歳ぐらいの少年を中心とする、雇われて犯罪に携わる集団）に似ています。

ギャングによる暴力では、一般に、銃とナイフが用いられます。ギャングの仕業であることを示すための刺青や他のしるしが、犠牲者の身体に彫られていることもしばしばあります。また、殺人の方法においては、プロフェッショナルであったり技術的に優れているということはありません。能力と資金が欠如しているので、通常、銃弾は数発用いられています。ギャングたちの活動の不安定さのために、殺人はもっとも複雑でない、可能な限り直接的な方法で行われます。証拠隠滅のために犯行現場を操作することもありません。ギャング間の抗争の場合には、年齢が重要な変数であり、多くの場合、若者が犠牲になります。ギャングによる殺人の遺体は、そのギャングが勢力を持つ縄張りの中で発見され、多くの場合、その場所で殺害も行われたと見られています。

社会浄化とギャングの比較

一方の社会浄化には、より複雑で、多くの場合、拷問を含む長い時間のかかる殺人を可能にするような設備と資金が必要です。社会浄化は、拷問の痕跡を残すことで恐怖を広め、犠牲者に近い者たちに、自分たちの身に起きるかもしれないことについて警告を発するのです。一方、ギャングがターゲットとするのは、大きな集団ではなく犠牲者そのものです。ギャングは、自分たちの縄張りの中で殺害を行いますが、社会浄化の犠牲者は、通常、どこか別の秘密の場所に連れ去られ、閉じ込められて、拷問を受け、殺されるのです。また、殺された後の遺体は、多くの場合、ギャングの縄張りではない、さらに違う場所に捨てられます。ギャングの犠牲者は、一六歳から二〇歳の若者が多いのですが、社会浄化の場合にはより広い年齢の人々が犠牲となっています。ギャングによる殺人は、お金がかからない方法で行われていますが、社会浄化の場合は、たとえば、車、犠牲者を閉じ込める場所、通信手段、統制された行動を行うチームなどの資源が必要です。社会浄化が実行される場合には、このような方法で社会を支配することを認めるよう世論を動かす努力が見られます。社会浄化の方法を支持するようなのぼりやチラシ、ステッカー、ポスターなどが、国のあちこちに出回るのです。

4. 女性の殺人あるいはフェミニサイド

クラウディーナ事件

クラウディーナ・イサベル・ベラスケス・バイズ（Claudina Isabel Velasquesz Paiz）が両親に最後に連絡してきたのは、二〇〇五年八月一二日午後一時四五分ごろでした。八月一三日未明の二時ごろ、彼女の両親は、クラウディーナのボーイフレンドであるペドロ（Pedro Samayoa Moreno）の母親モレノ夫人（Zully Moreno）からのクラウディ

ーナが大変な危険にさらされていると言う連絡で起こされました。モレノ夫人は、クラウディーナが歩きながら彼女のところにかけてきた電話が、助けを求める叫び声とともに途中で切れたというのです。クラウディーナの両親は、すぐに娘を探しに出かけました。最初はクラウディーナが参加していたパーティーが開かれていた、Colonia Panorama界隈の家の近所を探しました。しかし、娘を見つけることも、パーティーから何らヒントを得ることもできずに、両親はパーティーから自宅に至る道のりを探し始めました。

途方にくれた両親は、八月一三日の午前三時ごろ、地元の交番に届けを出そうとしました。しかし、警察官は届出の受付を拒み、心配する両親の話を聞こうともしませんでした。彼らは、クラウディーナはボーイフレンドと駆け落ちしたのではないか、いずれにしても、クラウディーナが二四時間見つからず、公式に行方不明とされるまで届出は受付けられないと言うのです。警察が、ようやくクラウディーナの両親から娘が行方不明だという届出を受け付けたのは、朝八時半になってからでした。これは、すでに命を失った彼女の身体が、パーティーが開かれていた場所から二マイルと離れていない、第一一地区Colonia Rooseveltの一〇番街で発見されてから三時間半後のことです。しかし、この遺体がクラウディーナだと確認されたのは、その日もずっと遅くなってからのことでした。

クラウディーナの事件は、二〇〇五年に殺された五〇〇人以上の女性の事件と同様に、彼女の遺体が見つかったその瞬間から放置されました。ある警察官が認めたように「犯行現場は、犠牲者の社会的な出自と地位についての偏見から、規定どおりに捜索されなかった。彼女は、その死について捜査が必要な人間とは判断されなかった」のです。最初に犯行現場に到着した警察官は、彼女がへそにピアスをつけてサンダルを履いていたため、捜査に〝値しない〟と判断しました。グアテマラ警察の言い分では、これは、彼女がギャングの一員か売春婦であることを意味しているというのです。

しかし、クラウディーナはギャングでも売春婦でもありませんでした。彼女は一九歳の法学部の学生でした。美しく社交的で、仲間たちみんなから好かれていた彼女の葬儀には、五〇〇人を超える人々が参列しました。彼女の父親ホルヘ・ベラスケス（Jorge Velasquez）は、何人かの制服の武装警察官が葬儀にやってきて、娘の遺体を引き渡せといったとき、いったい何が起きたのか、理解できませんでした。ベラスケス氏が断ると、警察官たちは彼と妻を逮捕すると脅しました。棺が葬儀の場から別室に運び出されると、警察官たちは棺の中にある遺体から指紋と爪を無造作に採取しました。彼らは、法医学的分析のために必要なこれらの採取を終えると、ベラスケス氏に紙袋をひとつ手渡しました。おどろくベラスケス氏に向かって、警察官は、袋にはクラウディーナが殺されたときに着ていた衣服が入っていると説明しました。「多くの家族は着ていた服を棺の中に入れて埋葬しますからね」と警察官は言いました。混乱したベラスケス氏は、衣服を棺に入れるつもりは無い、二度と娘に構うなと告げました。彼はその意味を深く考えずに、世界中のほとんどの場所で殺人事件の証拠として保管されるであろう、その紙袋の中身を、葬儀場に燃やすように頼んでしまったのです。

殺人事件の捜査手順

殺人事件の捜査に関して拘束力のある国際基準は存在しませんが、基本的な捜査手順はどこの国でもあまり違いませんし、正しい捜査手順として、被害者が身につけていた衣服を遺体と一緒に埋めるために家族に返すことを推奨しているところはどこにもありません。事実、基準となる手順として顕著なものがあるとすれば、それは、事件の複雑さにかかわらず、手順の簡潔さと科学的な一貫性であるといえます。最初になすべきことは、犯行現場を保全し、写真や血痕から足あとまですべての証拠を集め、それらの位置関係を記録することです。そのうえで遺体が現場から運

び出され、詳細な法医学的解剖を行うために解剖室へと移されるのです。解剖では、脳を含むあらゆる臓器の検査が行われます。血液やその他の体液のサンプルが、麻薬、アルコール、その他の薬物の検査のために採取されます。性的暴行が疑われる場合には、精液のDNA検査のために、膣、直腸、口腔内を綿棒で採取します。爪と指紋の採取は、DNA検査のために解剖時に行われるものです。銃創や急激に力が行使された痕が見られる場合には、X線写真がとられることもあります。

解剖に先立ち、犠牲者の身体から衣服がはずされます。ナイフや銃弾、あるいは襲われた際のもみ合いによる裂傷とを見分けるために、衣服を切る際には、通常、ピンキング鋏を用います。衣服（および身体）に付着した毛髪や他の繊維を顕微鏡検査のために採取し、衣服についた血液や他の体液による染みも集めます。衣服の切れ目の大きさや形、犠牲者が被った傷との関連などについても調べます。このような衣服に関するすべての検査が終わったあとで、衣服は証拠として保管されるのです。スノウ（Clyde Snow）医師が指摘するように、犠牲者の衣服は「近親者に返されるべきものではない」のです（二〇〇六年七月一日の個人的対話より）。宝飾品や他の価値ある個人的な所有物については、証拠としての価値があると判断されない限り、家族に返却されます。証拠として採用された場合には、裁判が終わるまで返却されることはありません。これは、もちろん、容疑者の逮捕に繋がるような捜査が行われ、犯人が逮捕され、裁判が行われた場合のことですが。

クラウディーナ事件では、説明されていない点が数多くあります。まず、発見現場では、現場の捜査が行われる前に遺体がシーツで覆われていました。このシーツはいったいどこから来たものなのか。誰が、彼女にシーツをかけたのか。当然の疑問です。少なくとも、シーツの存在は、警察が来る以前に何者かが彼女の遺体に触れたことを意味します。さらに、発見現場の最初の写真にはシーツが写っていますが、シーツは証拠として保管も検査もされていませ

ん。また、報告書には、最初に現場に到着した救急隊員の名前が記載されていません。つまり、救命あるいは彼女の死亡を確認するために、どんな処置を施したかの記録がないのです。犯行現場の捜査にどのくらいの時間がかかったのかも明確ではありません。軍事警察の補助捜査官は、記録と証拠集めのために午前六時半から七時半までの一時間、発見現場にいたと主張しています。軍事警察の検屍官は、解剖報告書の中で午前八時一〇分には解剖を終了したと記載しています。解剖室の記録では、遺体は午前六時半に到着したことになっています。犠牲者の衣服に何があったか、衣服について法医学的な検査が行われたかどうかも明確ではありません。さらに、国家市民警察（PNC）の二〇〇五年八月一六日付報告書（No.2242-2005 EEC G-10）では、クラウディーナの指紋と爪の採取が、発見現場の捜査や解剖の際ではなく、葬儀場で行われたことに言及されておらず、報告書の内容にも疑問を抱かざるを得ません。

クラウディーナの遺体が発見されたのは非公式なレストランも兼ねているという家の前でしたが、PNCも軍事警察もこの家やレストランに血痕その他の証拠がないかどうか調べる努力をしていません。同様に、証人が特定されておらず、その後の事情聴取もされていないことから、そもそもこの家の住民が事情聴取されたかどうかも不明です。報告書では、氏名を明らかにせずに、多くの目撃者が白いタクシーに似た車を現場で見たと述べています。PNC、軍事警察、いずれの報告書も「匿名を希望する証人によれば…」と、名前をあげずに証人の証言を掲載しています。双方の警察による事情聴取は別々に行われており、捜査官が互いに会合したり、記録を比較したりするという努力はなされていません。

死亡時刻のような、法医学的に最も基本的で重要な情報に関しても深刻な混乱が見られます。検屍官の報告書によれば、死亡時刻は〝一時間から三時間の間〟とされていますが、これが午前一時から三時を意味するのか、解剖の一時間から三時間前を意味するのかがわかりません。いずれであったにせよ、検屍官の記録で解剖が午前八時一〇分に

終了したとされていることを考えると、〝二時間から三時間の間〟が、実際の解剖を基準にしているのか、午前六時半に発見現場で最初に遺体が検査された時を基準にしているのかも不明です。さらに、死亡時刻の推定に欠かすことのできない犠牲者の体温や周囲の温度も報告書には記載されていません。

また、報告書ごとに、犠牲者に見られた傷についての記載が著しく異なります。軍事警察の報告書には、発見現場の写真に見られる傷についての記載がありませんし、PNCの報告書では左目から頬にかけて大きなあざがあったとされています。検屍官は、写真に写っており、PNC報告書にも記載されているのに、左ひざと右脇腹にひどい擦り傷があったことを記載していません。犠牲者の衣服や犯行現場の血痕のサンプルや分析についての記録はどこにもありません。検屍官は、死後、遺体に何らかの手が加えられていることを指摘していますが、これが何を意味し、重要なことなのかどうかについての説明はありません。

報告書では、着衣のあちこちに血痕が見られ、ブラジャーとベルトがはずされていたこと、ズボンのファスナーが下げられていたこと、ブラウスが後ろ前になっていたことなどが指摘されていますが、彼女の着衣のうち、ブラウスだけが検査に出され、他の衣類についての分析は行われませんでした。また、報告書には、ブラウスから指紋を検出しようとした形跡はありません。犠牲者の頭部には銃傷がありましたが、報告書には、発砲時の犠牲者と加害者の位置関係を示す、銃弾の角度や弾道についての記載がありません。また、殺人事件の捜査においては不可欠な情報であるはずの、クラウディーナの遺体が発見された場所が、彼女が殺された場所なのかどうかについても記載されていません。発見現場での捜査は八月一三日午前七時半に終了しましたが、検屍官の発見現場の報告書は、二〇〇五年八月三〇日まで書かれず、二〇〇五年一一月まで軍事警察の捜査ファイルにも入れられませんでした。

解剖室で実施された解剖にも、検屍官が解剖に参加した者の名前を記載していないなど、多くの欠落と一貫性の欠

如が見られます。検屍官が死亡時刻を報告するまでに一年以上かかっており、報告書にクラウディーナの名前を記載するだけでも二カ月近くかかりました。当初の報告書には、二〇〇五年八月一三日午前一一時に、二〇歳ぐらいと見られるXXという女性の解剖を行ったと記載されています。この報告書は二〇〇五年八月一六日付けですから、クラウディーナの母親が八月一五日正午に遺体を確認していたにもかかわらず、検屍官はクラウディーナの名前を報告書に記載しなかったことになります。こうした欠落は、検察庁からの要請により、正式な訂正手続を経て訂正されるべきものですが、二〇〇五年一〇月七日までそのような手続はとられませんでした。クラウディーナの名前を記載したのと同じ訂正手続によって、検屍官は、死亡時刻についての混乱も整理しました。検屍官は〝一時間から三時間の間〟とするかわりに、「死亡時刻は解剖の七～一一時間後」[14]と記載したのです。検屍官がこの間違いを直し、死亡時刻は解剖の七～一一時間前であると訂正したのは、二〇〇六年六月七日になってからでした。

クラウディーナの銃創に関して銃弾の弾道や角度が分析されたことはありません。彼女の目やあごに見られた挫傷やあざは、どの法医学的報告書にも記載されていません。鼻付近からの大量の出血が、発見現場の写真やビデオから明らかであるにもかかわらず、これも検死報告書では取り上げられていません。同様に、左ひざ、右わき腹、左つま先のひどい擦り傷についても、これらの傷が加害者ともみ合ううちにできたものか、あるいは、死後、クラウディーナの遺体が殺害場所から発見場所に移されるときについたものなのかが、争点として残っています。全体として、頭部に受けた銃弾によって命を落としたこと以外、彼女が受けた傷についての詳細な記述はありません。弾道についての分析も然りです。弾道に関する報告書は二〇〇五年二月二日付けで、軍事警察が二〇〇五年二月二八日受領印を押しています。クラウディーナはこの六カ月あとに殺されていることを考えれば、何とも不可解です！

検察庁は、クラウディーナの殺害から二カ月後に家族が娘の事件がどうなっているのかを問い合わせてくるまで、

家族からの事情聴取を行っていませんでした。軍事警察も、殺害当日に何が起きたのかについて聞くために、クラウディーナと最後に一緒にいた友人、知人を探すことをしていませんでした。クラウディーナが最後の二四時間に乗ったと見られる交通手段の捜査もまったく行われませんでした。軍事警察が採用した証言は、たまたま自発的に軍事警察に出向いて宣誓をした個人によるものだけです。これらの証言が、クラウディーナの両親からの証言を得ることなく、また、捜査における事情聴取の目的を定めることもなく、採用されたのです。この事件にかかわる捜査官たちは、捜査の戦略を立てるための合同会議を開いていませんし、すべての意見は、ただ単にそのまま記録されています。捜査上で発見された矛盾についての分析もされていません。

軍事警察は、クラウディーナの遺体の発見現場の目撃者を探す努力をしていません。軍事警察は、クラウディーナが最後に参加していたパーティーの出席者名簿を作成することもできませんでした。軍事警察は、このパーティーに出ていた人物リストをつくり、全員から事情聴取をする代わりに、パーティーには正式な招待客リストが無かったと答えています。クラウディーナの殺害から三カ月後まで、主要な容疑者の自宅の捜索は行われませんでした。凶器の捜索もされていません。軍事警察がクラウディーナ事件についての事情聴取を始めたのは、二〇〇六年六月になってからです。しかも、この事情聴取では、殺される直前にクラウディーナがどこにいて誰と一緒だったのかを明らかにするための準備がされていなかったと見られています。軍事警察は、クラウディーナと一緒にいるところを見られたり、あるいは彼女と連絡をとっていたとみられる人々の電話記録を集めることもしていませんでした。クラウディーナの携帯電話は今も使われていますが、軍事警察ではその所在をつかんでいません。

クラウディーナ事件において、もっとも重要な点のひとつは、捜査が行われているということです！　ほとんどの事件は、彼女の父親があらゆる手段を使って捜査を要請しなければ、クラウディーナ事件も終了したであろう時点で

終わっています。彼女の事件は、彼女の名前さえ記載していない解剖報告書とともに終了していたかもしれないのです。これが、五、三三八人もの男女が殺されながら、二〇〇五年に検察庁が訴追できた殺人事件が八件しかないことの理由かもしれません。

なぜフェミニサイドなのか

クラウディーナが彼女を知っている者に殺されたのだとしたら、なぜ、彼女の事件をフェミニサイドに分類するのでしょうか。フェミニサイドとは何か、また、それが現状を説明するためにどう役立つのでしょうか。フェミニサイドは、女性への嫌悪による犯罪です。フェミニサイドは、加害者だけでなく、女嫌い（misogyny）を当然のこととする国家や司法制度の責任を問う、政治的な用語です。不処罰、沈黙、無関心は、それぞれフェミニサイドに関係しています。フェミニサイドという概念は、ジェンダーの不平等に根ざした暴力を私的領域に位置づける価値システム[15]を分解することに役立ち、男性と女性の間の力関係の産物である女性の殺人の、まさに社会的な特徴を明らかにするものです。さらに、この現象に対する制度的、社会的対応の法的、政治的、文化的分析の探索を可能にします。フェミニサイドは、権力構造に立ち戻り、作為あるいは無作為による、責任主体としての国家の関与を問うものです。グアテマラのフェミニサイドは、女性の権利の保護が保障されていないために起きています。グアテマラ政府は、社会の女性構成員の安全を保障するための司法的、社会的条件を整えられていません。アムネスティ・インターナショナルが指摘したように「公式の殺人統計における死因の分類が、これらの犯罪の多くにみられるジェンダーに基づく残虐さと性的な性格を覆い隠している」[16]のです。

女性の殺人を理解するための枠組み

国家市民警察（PNC）は、これらの女性の殺人事件の表面的な登録に基づいて、その〝原因〟をギャング関連二一％、個人的問題二一％、男女関係一七％、強盗一〇％、麻薬取引九％、レイプ五％、銃撃四％、自殺、自動車強盗、ドメスティック・バイオレンスなどを合わせて一二％と分類しています。検察庁は、女性に対する犯罪のための特別検察官を設置しています。この検察官は、幾度かにわたり、グアテマラでは暴力自体が増えているのであり、女性に対する暴力に特定の原因はないと公言しています。つまり、女性の殺人を解決すべき責任を負っている検察官によれば、女性の殺人の天文学的な増加もこの全体の増加に付随するものでしかないというわけです。

新聞記事から見たところ、市民社会の大多数は、ギャングや連続殺人犯、麻薬密売者のせいだと考えているようです。軍事政党と関係のある国会の代議士たちは、殺人が増加しているのだから、地域の安全を守るために軍隊のプレゼンスを増やすことが必要だと論じています。街中で重装備の警官と兵士数十人が一緒にパトロールしているところを見かけるのは、珍しいことではありません。さらに、他の議員は、殺人率が増加しているのは、ギャングや麻薬密売者らが（自らの犯罪から）注意をそらすために殺人事件を起こしているからだと信じています。軍隊や公安機関の再編成が討議されると殺人も増えるという事実が、これらの発言からわかります。このような暴力が社会を不安定にし、グアテマラで〝並行勢力（parallel powers）〟と呼ばれるものを利するといわれています。

国連は、女性の残虐な殺害の不処罰を、暴力を用い、また、それを止める政治的意思が政府にないのをいいことに、自らの力を増殖させようとしている並行勢力の存在と関連づけています。米州人権委員会は、これらの殺害は、女性に対して自分の身を守り、私的領域における家族と家事に戻れという信号を送るものだと述べています。女性は、公的な役割を担い、男性と競合するかもしれないと思われるようになると、公的領域への参加をあきらめるように言わ

れるのです。フェミニサイドの明らかな影響のひとつは、グアテマラでは、夜、女性がひとりで安全に外を歩くことができなくなったということです。しかも、米州人権委員会報告者スーザン・ビララン（Susan Villaran）によれば、警察が〝男女関係〟による殺人と分類した事件は、捜査されていません。これは、不貞で、嫉妬深く、不誠実な犠牲者（女性）が男性の名誉を傷つけた事件であり、犠牲者とその家族に責任があるという、女性差別的な考え方に基づくものです。米州人権委員会によるこの判断は、同じく〝男女関係〟と分類された殺人事件が、きちんと捜査されたことはないというアムネスティ・インターナショナルの結論とも一致します。売春婦は犠牲者のわずか二%でしかないことを考慮すると、女性の殺人と社会浄化の関連はすぐに明確になるものではないかもしれませんが、私は、女性の殺人の責任をギャングに負わせることで、貧しい若い男性に対する社会浄化を正当化しようとしている面があると考えています。そして、社会浄化の不処罰には前例があります。これほどにも多くの殺人を処罰しないということは、女性や人権NGOに正義の追求をやめさせるようとする秘密集団に白紙委任状を渡すようなものです。一〇〇一年には、首都の中心部で武装した男性の一団が女性団体の事務所に押し入り、女性たちを殴り、レイプするという事件が起きました。このような事件が、交番から一ブロックしか離れていないところで起きたのです。女性に対する暴力と女性の殺人は、不処罰と政府による対応の欠如と結びついています。

5. 国家の歴史的役割と不処罰

一九八〇年代に政府機関によって殺害された何千人もの女性たちは、殺される前に性的暴力や拷問を受けていました。事実、歴史究明委員会は、国が兵士やその他の武装要員に対し、女性をレイプし、辱すための訓練をしていたこ

とを確認しています。〈図7〉

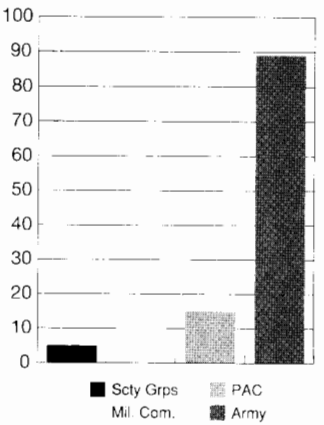
これらの犯罪は、処罰を逃れたままになっています。戦争中には、国家が女性をレイプし、損傷し、殺すよう殺人者たちを訓練していました。女性に対する犯罪について正義が問われたことはありません。殺人犯やレイプ犯は自由の身です。政府がこれらの犯罪者たちを処罰せずにおくならば、どうしてクラウディーナやその他の殺された女性たちの犯人を捜してくれると、期待できるでしょうか。

さらに、過去および現在の暴力について、実際に起きたことと言説との関係を示す証拠があります。実のところ、一九八〇年代までさかのぼる、ある種の言論が存在しているのです。一九八〇年代の軍事政権は、犠牲者を反逆者と呼んで非難しました。また、抑圧的な体制に反対するものは誰でも脅迫し、軍隊が犯した犯罪については恩赦を要求しました。殺人や失踪者についてはゲリラの犯行であるとし、国全体を巻き込んだ暴力については関与を否定しました。一九九〇年代になると、軍隊は、大量虐殺について、その犠牲者たちを責め、犠牲者と生き残った者たちは反逆者であると主張しました。問題を明らかにしよ

図7　State Agents as Material Authors of Sexual Violence Against Women

・According to the CEH, the material authors of sexual violence against women were:
・89% - Army
・15.5% - PAC
・11.9% - Military Commissioners
・5.7% - Other Security Forces

Source : Consorcio Actoras de Cambio : La Lucha de las Mujeres por la Justica y el Institutto de Estudios Comparados en Ciencias Penales de Gualemala, 2006 : 32



うとする者を脅迫し、いかなる犯罪についても恩赦を求めました。あらゆる暴力についてゲリラの責任を問い、明らかに軍隊が関与した暴力についても知らなかったと言い続けたのです。スペインの裁判官はＥＴＡ（バスク地方の独立を求める急進的民族組織「バスク祖国と自由」）のテロリストであると主張し、証人を脅し、自らに係わる犯罪すべてについて恩赦を要求し、大量虐殺の罪はゲリラにあるとし、軍の関与は否定しました。現代のフェミニサイドと社会浄化については、司法制度一般と、特に検察庁が、犠牲者をギャング構成員と呼び、価値のない存在と切って捨て、暴力の罪をギャングに被せようとしています。社会浄化の存在を否定し、証人などいない、また、あらゆる種類の暴力についても知らないと言い続けているのです。

九八〇年代の集団殺害や米州人権裁判所の決定、スペインの裁判所による国際逮捕状などと、女性の殺人、社会浄化、そしてクラウディーナを結びつけるのは、不処罰です。不処罰とは、法を守る責任を負う者による法律違反です。

国際社会は、女性や人権団体、そしてＰＤＨ（人権オンブッド）を支持することにより、グアテマラにおける不処罰を終わらせるために積極的な役割を果たしています。外交使節やこの問題に関心を抱く市民、国際援助団体などは、不処罰を終わらせることと国際援助を結びつけることができます。具体的には、国際社会は、下記の事項を実施するよう圧力をかけることができるのです。

1. 検察庁に対して―フェミニサイドや他の殺人事件についての捜査を進めること。
2. 警察に対して―偏見を持たずに捜査すること。
3. 検屍官に対して―あらゆる殺人事件について、犠牲者の見かけに左右されることなく正規の法医学的手順に従うこと。殺人事件の捜査においては、標準的な手順の中に性暴力についての検査を含めること。
4. グアテマラ政府に対して―スペインの裁判所と協力し、スペインにおける裁判のために将軍らを引き渡すこと。

法制度の中で、現在放置されている何百もの人権侵害事件の捜査を進めること。十分な捜査と国家における並行勢力の役割を開示し、不処罰の習慣を崩すこと。

ご清聴、ありがとうございました。

＊私を神奈川大学に招いてくださった阿部浩己教授と近江美保さんに感謝いたします。本講演に対するご意見やご質問は、私がフェミニサイドの概念について考える上で大変参考になりました。私の夫ラウル・フィゲロア・サルティと、どんな雨の日にも陽射しをもたらしてくれる私たちの娘バレンティーナに感謝を捧げます。

1 CEH, 1999, *Memoria del Silencio*, Guatemala City: CEH, vols. 1-12.

2 CEH, 1999, *Memoria del Silencio*, Guatemala City: CEH, 5 : 42.

3 CEH, 1999, *Memoria del Silencio*, Guatemala City : CEH, 2 : 315.

4 Sanford Guatemalan Genocide Databases, www.yale.edu/gsp　参照。

5 See Corte IDH. Caso Masacre Plan de Sánchez Vs. Guatemala. Sentencia de 29 de abril de 2004. Serie C No. 105. http://www.corteidh.or.cr/pais.cfm? id_Pais=18

6 El Periodico (Guatemala) , July 8, 2006, page1.

7 ガルシア将軍は、逮捕状が出される直前にベネズエラで死亡したものと見られる。

8 Procuraduria de Derechos Humanos de Guatemala (PDH), Informe de Muertes Violentas de Mujeres 2005, Guatemala City : PDH, 8.

9 Procuraduria de Derechos Humanos de Guatemala (PDH), Informe de Muertes Violentas de Mujeres 2005, Guatemala City : PDH, 11.

10 http://en.wikipedia.org/wiki/Murder

11 Procuraduria de Derechos Humanos de Guatemala (PDH), Informe de Las Carateristicas de las Muertes Violentas en el Pais, Feb. 2006, Guatemala City : PDH, 5.

12 Procuraduria de Derechos Humanos de Guatemala (PDH), Informe de Las Carateristicas de las Muertes Violentas en el Pais, Feb. 2006, Guatemala City : PDH, 5.

13 Procuraduria de Derechos Humanos de Guatemala (PDH), Informe de Muertes Violentas de Mujeres 2005, Guatemala City : PDH, 9.

14 Jorge Velasques letter to Ministerio Publico, October 7, 2005.

15 Maldonado-Guevara, Alba Estela, Feminicidio en Guatemala: Crimines Contra La Humanidad. Investigacion Preliminar. November 2005 : 18. http://www.congreso.gob.gt/uploadimg/documentos/n1652. pdf

16 Maldonado-Guevara : 13.

訳注

・文中に引用されているジェノサイド条約の日本語訳は、『国際条約集 二〇〇七年版』（有斐閣）によった。

・本講演は当初「ジェノサイドからフェミサイド（女性殺人）へ―二一世紀のグアテマラにおける人権と免責」というタイトルで実施されたが、本翻訳原稿の掲載にあたり、サンフォード氏の希望によりタイトルを変更した。

近江美保（法学研究科博士後期課程）訳